■原弘　　グラフィックデザイナー。タイポグラフィーをテコに，装幀(ブックデザイン)を中心に，時代をリードした。
はらひろむ
日比谷公園・1903＝　長野県飯田市で，木曽の士族出で印刷業{発光堂}を営む原四郎・いちの3男2女の第2子長男に生まれる。
日露戦争終・1905＝ 2歳：
父の兄勇馬は逸早く写真というメディアに着目，同志と{信濃写真会}を結成し，機材の共同購入など先進的に取り組み，弟の四郎と出版事業にも乗り出し，
韓国併合・・1910＝ 7歳：飯田町立飯田尋常高等小学校に入学。
大逆事件判決1911＝ 8歳：この年，父が図集{伊那之華}を創刊，第3号で終わるも，写真の製版・印刷技術はかなりのレベルで，
明治天皇没・1912＝ 9歳：
子供の頃から，活字や印刷に親しむ環境に育つなか，毎年表彰されるほどの優等生ぶりを発揮，
民本主義・・1916＝13歳：名門校の長野県立飯田中学校に入学するが，
本格政党内閣1918＝15歳：_東京府立工芸学校に印刷科が新設されると，父の命で，上京して入学，平版分科を専攻(翌年に製版印刷科と改称)するが，印刷技術よりも，図案装幀術や色彩学といったデザインに関する授業に強い関心，
原敬首相暗殺1921＝18歳：_卒業。初代科長宮下孝雄が東京高等工芸学校設立準備で休職したため，そのまま助手となり，印刷図案と石版印刷の授業を担当。第1次世界大戦に関する{世界大戦ポスター展覧会}を見学して驚愕，
関東大震災・1923＝20歳：学校で大地震に遭遇，大火で木造校舎が全焼，下宿も焼失したため，一時帰郷。
護憲三派圧勝1924＝21歳：帰京して授業再開。開場した{築地小劇場}に興味を抱き，とくに村山知義に触発される。_教師と生徒で組織した研究団体{製版印刷研究会}の機関誌{PTG}の表紙デザインを担当し，論文「ポスター雑考」を発表，
治安維持法・1925＝22歳：_国際コンペによるカルピスの宣伝ポスターを見，美術雑誌{みつゑ}の記事でバウハウスの存在を知る。前衛的な{三科}の公募展に応募して入選，亡命ロシア人デザイナのブブノワに推薦されたことが自信に。
円本時代始・1926＝23歳：_製版印刷科でも，海外のさまざまな様式を試み，その実習用図案をまとめた「ひろ・はら石版図案集」，
金融恐慌・・1927＝24歳：_続けて「原弘石版図案集Nr.Ⅱ」を自費刊行，
共産党事件・1928＝25歳：_チヒョルトの「ディ・ノイエ・テュポグラフィ」を読んで，日本の活字環境での実現を目指し始め，
世界恐慌・・1929＝26歳：一時プロレタリア美術活動。_{PTG}に，記念碑となる論文「欧州における活版印刷の新傾向」を発表，
海軍軍縮条約1930＝27歳：*広告界の先導者太田英茂が指揮し，当時のトップクラスの図案家を集めた花王石鹸長瀬商会の新装パッケージデザイン指名コンペに，最年少で参加する機会を得ると，提出した案の一つが採用となり，
満州事変・・1931＝28歳：助教論になる。_頭角を現す一方，ノイエ・テュポグラフィ理論を集大成した「新活版術研究」を刊行，
五一五事件・1932＝29歳："新しい印刷美術の研究と製作"を目標に，_府立工芸学校製版印刷科の卒業生有志と{東京印刷美術家集団}(略称・パアク)を結成し代表。_季刊論集{建築・造園・工芸}に論文「新しい視覚芸術へ」，
国際連盟脱退1933＝30歳：ナチスの台頭で，チヒョルトとバウハウスが退場。_写真雑誌{光画}に，論文「絵～写真，文字～活字，そしてTypofoto」を連載，同誌同人の木村伊兵衛らと親交を深め，初の展示デザインとなる野島康三の写真展は建築界からも高い評価。彼らを通じて，ドイツを退去させられた名取洋之助の{日本工房}結成に参加，その影響で理論偏重から実作重視に転換，木村が一躍有名になった写真展「ライカによる文芸家肖像写真展」，
帝人疑獄事件1934＝31歳：_展示デザインを担当「報道写真展」で{日本工房}の名が轟くも分裂，離脱した木村らと{中央工房}を結成，以後，木村とタッグを組むようになり，写真雑誌{フォトタイムス}に論文「写真ポスタア」を発表しし，木村を会長とする海外向け写真配信機関{国際報道写真協会}の創設に参加。
芥川直木賞始1935＝32歳：小倉美智子と結婚。_{広告界}に論文「図案生産の形式に就いて」を発表，印刷デザイン雑誌{印刷と出版}とも緊密な関係を持ち，木村の写真を使用したポスター「大東京建築祭」「島津マネキン新作品展覧会」で成果。国際観光局が創刊し，世界各国から大反響呼ぶ対外観光宣伝誌{トラベル・イン・ジャパン}のデザイン，
二二六事件・1936＝33歳：同潤会江戸川アパートに転居し，没するまで暮らす。東京府立工芸学校教論。_「第4回スナップ写真懸賞募集」で活版ポスター。第2回オリンピック東京大会の海外向け告知広告をデザインし，観光局公認となる。
日中戦争始・1937＝34歳：長女弓子が誕生。*パリ万国博覧会に向けて「日本観光写真壁画」のデザインをし，戦前の代表作になる。
健保+総動員 1938＝35歳：_戦前の木村を代表する写真集「ジャパン・スルー・ア・ライカ」が，初めて本格的なブックデザイン，
第二次大戦始1939＝36歳：_ニューヨーク万国博覧会の写真壁画「日米修交」も担当。
日米開戦・・1941＝38歳：_20年勤めた府立工芸学校を辞して，{東方社}(理事長岡田桑三)の設立に参加，美術部長になり，
・・・・・・1942＝39歳：次女久子が誕生。_対外宣伝誌{フロント}の多くをブックデザイン，各国の宣伝誌のなかでも出色。
敗戦・・・・1945＝42歳：{東方社}を退職後，敗戦。林達夫の招聘や，GHQの依頼も断り，_旧東方社社員による{文化社}に参加，
新憲法公布・1946＝43歳：_自ら企画し，戦後第一作となる写真絵本「ピクトリアル・アルファベット」，続いて木村の「東京・一九四五秋」のブックデザインをするが，{文化社}は解散。戦後初の装幀となる山本有三の「女の一生」を皮切りに，
新憲法施行・1947＝44歳：長男良太が誕生。_造型美術学園(のち武蔵野美術学校)実用美術科の教授になって，後進の育成に尽力。自らが装本処女作とする坂口安吾の「白痴」の成功で，続く敗戦象徴しベストセラーになった「堕落論」，
極東裁判決・1948＝45歳：_代表作「吹雪物語」など，以後，装幀を基本に活動。
独立回復・・1951＝48歳：林達夫の推薦で{平凡社}の{児童百科事典}を装幀。_{日本宣伝美術会(日宣美)}の創設に参加。この年発刊の{毎日新聞}の対外貿易振興年鑑{ニュー・ジャパン}以後，欧文タイポグラフィのデザインでも活躍，
ﾒｰﾃﾞｰ事件・ 1952＝49歳：*{日宣美}中央委員になり，中枢を担う。武蔵野美術学校の商業美術科新設に伴い，主任教授。{角川書店}の「昭和文学全集」がヒット，以後，各社の文学・美術全集の装幀で，実力を遺憾なく発揮して行く。
TV放送始・・1953＝50歳：_装幀美術展で「世界の現代建築」が文部大臣賞。開館した国立近代美術館の委員に就任し，同館の{世界のポスター展}に出品。以降，国立近代美術館の展覧会告知ポスターの大半を担当，
55年体制始・1955＝52歳：_各家庭に普及した{平凡社}の「国民百科事典」，
なべ底不況・1957＝54歳：この前後，欧米で開催された日本のデザイン展に参加，ブラジルを訪問し，欧米を歴訪。
ｲﾝｽﾀﾝﾄﾗｰﾒﾝ・1958＝55歳：_国際文化振興会「日本歌舞伎舞踊」ポスターでADC銀賞。日本写真家協会功労賞。
美智子妃・・1959＝56歳：勝見勝創刊のデザイン誌{グラフィックデザイン}のアートエディター。_{日宣美}展に，戦後日本のポスター史に残る作品「日本タイポグラフィ展」。竹尾洋紙店で洋紙開発に携わるなど，多面的活動。
安保闘争・・1960＝57歳：_{世界デザイン会議}で日本実行委員会副委員長を務め，{日本デザインセンター}の創立に参加し，業界の育成に尽力。オリンピック東京大会のデザイン懇談会に参加し，のちに，賞状，入場券などをデザイン。
ｲﾀｲｲﾀｲ病始・1961＝58歳：_竹尾洋紙店との活動で，毎日産業デザイン賞を受賞。大ベストセラー吉川英治の「新・平家物語」の装幀。東京アートデレクターズクラブ(東京ADC)の会員になると，その中心を担う。
全国総合計画1962＝59歳：武蔵野美術学校が発展した武蔵野美術大学の造形学部産業デザイン学科の商業デザイン専攻主任教授。
TV宇宙中継始1963＝60歳：_現在も書店に並ぶ{筑摩叢書}の基本デザインをし，この年発刊の{平凡社}の本格的グラフィック雑誌{太陽}や外務省の日本文化紹介誌{グラフ・ジャパン}のアートディレクションを受託。
東京ｵﾘﾝﾋﾟｯｸ 1964＝61歳：_国際的にも評価され，トロントで開催の国際公募展{タイポマンダス20}の国際審査員の一人に選ばれた。
大学紛争始・1965＝62歳：_ライプチヒ国際ブックデザイン展で「日本列島」「世界写真年鑑65」「正倉院宝物」が書籍美術賞。
いざなぎ景気1966＝63歳：「タイポマンダス20」シンポジウムに参加。札幌オリンピック冬季大会デザイン委員となる。
美濃部都知事1967＝64歳：国際グラフィック連盟(AGI)会員，ユネスコのアジア地域出版技術研修コース実行委員。
霞ヶ関ﾋﾞﾙ・ 1968＝65歳：_造本装幀コンクールで，「技術と人間」「現実と創造」が最高特別賞，以後，"豪華本"は独壇場。
全共闘・・・1969＝66歳：{日本デザインセンター}社長。この年開発された書体"タイポス"を，自らの作風の対極にあるも称賛。
大阪万博・・1970＝67歳：_造本装幀コンクールで「芸話おもちゃ箱」が金賞。{日宣美}が解散，23年間務めてきた，武蔵野美術大学教授を辞任。写研主催の{第一回石井賞創作タイプフェイスコンテスト}の審査員を務め，
ﾄﾞﾙｼｮｯｸ・・ 1971＝68歳：_ライプチヒ国際ブックデザイン展で「アポロ百科事典」が金賞。紫綬褒章。
日中国交回復1972＝69歳：「第4回ワルシャワ国際ポスタービエンナーレ」の審査員としてワルシャワに赴く。帰途ソビエト，西ドイツ，オランダ，北欧を遊歴。_造本装幀コンクールでは毎年のように，受賞し，
石油ショック1973＝70歳：
角栄金脈辞任1974＝71歳：_カナダ・グラフィック・デザイナー協会から多年にわたるデザイン活動に対して名誉会員の称号を授与。
ｸｱﾗﾝﾌﾟｰﾙ事件1975＝72歳：*ライプチヒ国際ブックデザイン展で「萬葉大和路」が金賞。なお絶頂期にあったが，東南アジア旅行中に，クアラルンプールの空港で，脳血栓で倒れ，帰国後も入院。日本デザインセンター社長を辞任。
成田衝突・・1978＝75歳：_ようやく退院するも，半身不随，以後，リハビリのための入退院と自宅療養を繰り返しながら，
中曽根内閣・1982＝79歳：「西域美術」のブックデザインで造本装幀コンクールで通産大臣賞など，_諸賞を受賞し続け，
ﾃﾞｨｽﾞﾆｰﾗﾝﾄﾞ 1983＝80歳：_土屋文明「万葉紀行」の装幀を最後に，生涯，実に3000点におよぶ出版物を手掛けて，
バブル始・・1986＝83歳：自宅で，_没した。
川畑直道「原弘と"僕達の新活版術"」，